

「広葉樹の森」造成経過報告

古川営林署 古川森林事務所 森林官 田之尻 繁

1. はじめに

岐阜県吉城郡古川町の中心部より西に約2kmの位置に、旧大洞平苗木畑がある。ここは、面積が2.66HAあり、明治34年から昭和63年度の廃止まで大洞平種苗事業所として、苗木の生産を行ってきた。この近辺には、二ツ塚古墳、中野縄文遺跡、又、サイクリングロード等があり町民の憩いの場としての立地条件に恵まれていること、さらに、この一帯が古川町リゾート計画に含まれていることから古川営林署では、町民の皆さんに憩い、学び、ふれあいの場として親しまれるよう「広葉樹の森」を造成することとした。

この名称を「二ツ塚の森」として、平成元年度より造成してきたのでこの経過を報告する。

2. 造形経過と現状

(1) 造成計画の概要（別図参照）

当初の目的とする憩い・学び・ふれあいの3条件を達成するために次のように区域内を分割し、適する樹木を植え、付属施設の設置を計画した。

憩うために……散策できる遊歩道を設け随所にベンチを設置し、イベント広場に東屋を設置する。

学ぶために……遊歩道を設置し、その両側に飛驒地域の広葉樹を科・種毎に植え込み樹名や用途のわかる看板をつける。

ふれあうために……花、実によって四季を楽しみ、拾って触れて楽しむことをイメージした各ゾーンを作る。具体的には屋外演奏が出来るような、音楽の森には、白樺を植える。鑑賞の森には、サクラ、マンサク、ナツツバキ、ツツジ類等花を見て楽しむ木を植える。実の森には、トチ、クリ、ナラ、クルミ等実を拾って楽しむ木を植える。紅葉の森には、カエデ類、ナナカマド、マルバ等紅葉の美しい木を植える。

(2) 造成経過

植え込みは、山取り木を主体に考え自署管内で採取困難な樹木については、飛驒各営林署の協力を得て採取した。

平成元年度から本年度までの造成経過は、下記のとおりである。

平成元年度は、初年度を記念して古川町との共催による植樹祭において、サクラ63本、ケヤキ86本を植樹した。

平成2年度は、遊歩道350m作設、山取木等植え込み81種740本、下草刈3回、その他薬剤散布、支柱作りを施行した。

平成3年度は、遊歩道150m作設、山取木等植え込み66種935本、下草刈3回、その他薬剤散布、施肥、支柱作りを施行した。

平成4年度は、遊歩道150m作設、山取木等植え込み582本、下草刈3回、その他薬剤散布、施肥、支柱作り、野兎忌避剤塗布を施行した。

4年間の植え込み総数は、44科147種2,406本である。また、遊歩道の総延長は、650mである。

付属施設については、ベンチを5箇所に設置し、樹種名等の標識を設け、平成4年度には、イベント広場に東屋を設置した。

(3) 活用状況と課題

平成元年度以降、古川町との合同植樹祭、森林教室を行ってきた。また、小中学生等による野外学習の場、地域移民の憩いの場としても利用され、住民の反応も飛驒近辺には、このような箇所もないことから大変喜ばれている。

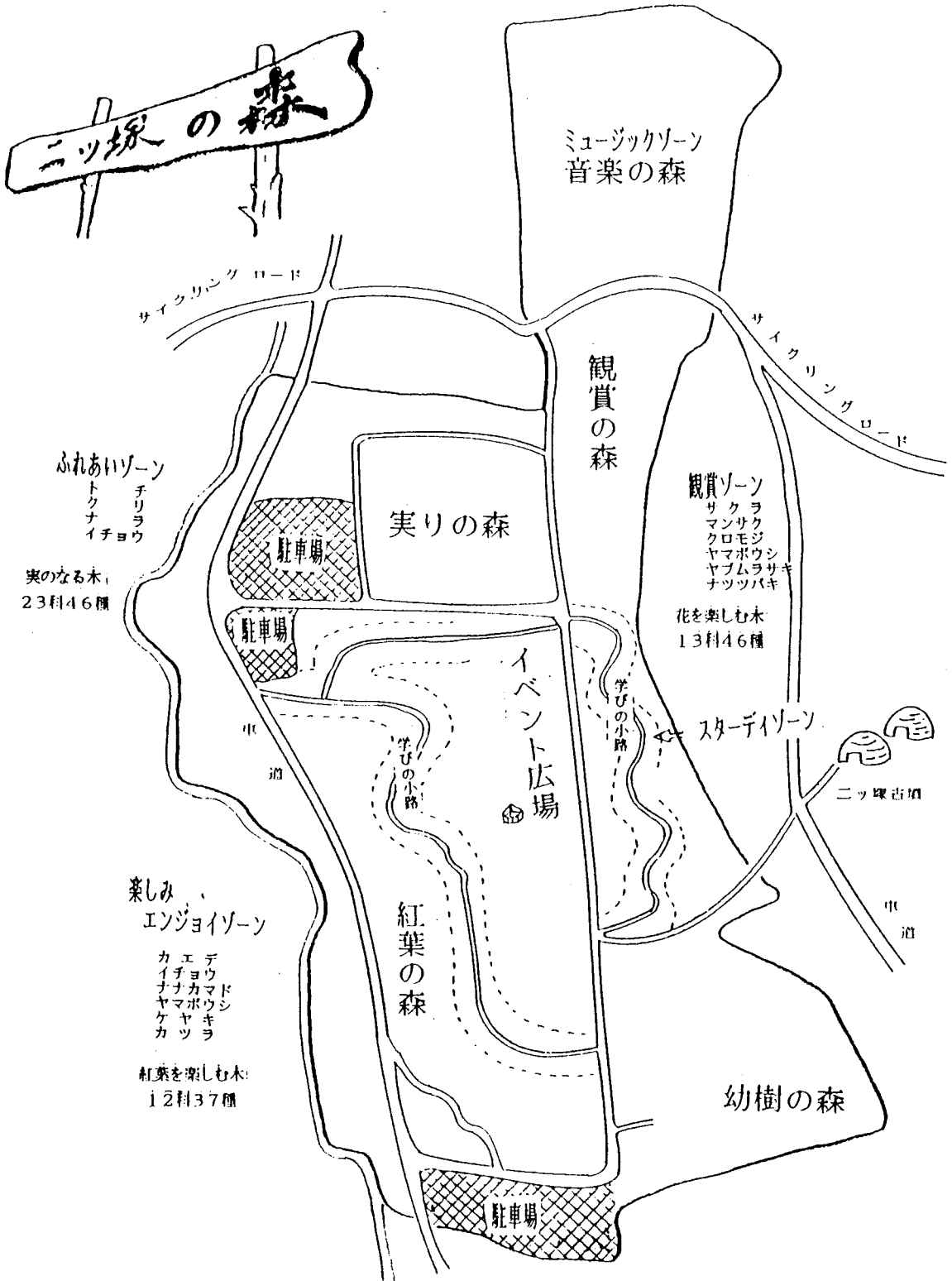
一方では、次のような課題がある。

- ① 野兎の害……周辺には、野兎が生息しており小径木中心に被害で出ている。対策として、昨年秋に忌避剤を塗布した。
- ② 植え込み木の維持管理…当該地の平均標高は570mであり、寒冷地でもあることから植え込んだ全ての樹木が適応出来るのか不明である。現段階での自然枯損もあり今後の観察が重要である。
- ③ 雪害……当地方は、積雪地帯でもあり樹木の幹折れ、枝折れが見られる。対策として支柱を立てているが、必ずしも有効とは言えない。

3. おわりに

「広葉樹の森」は、目的とする樹木の植え込みをほぼ終了した。古川町としても周辺整備の充実を具体化するものと予想される。当署としては、町と意志疎通を図りながら報告した課題の克服と付属施設の整備、森の維持管理に努め、所期の目的を達成したい。

施業地の概要



ふれあいゾーン
チリヲウ
トクナ
イチヨウ

実のなる木
23科46種

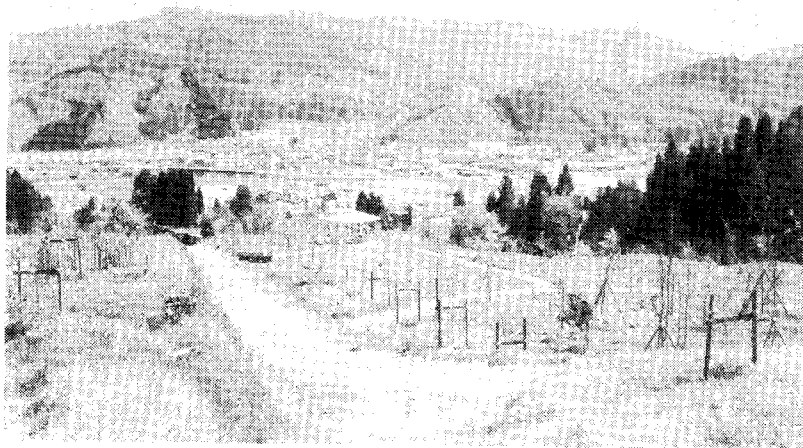
楽しみ
エンジョイゾーン

カエデ
イナカマド
ナヤマボウシ
ヤマヤキ
ケツラ

紅葉を楽しむ木
12科37種

観賞ゾーン
サクラ
マンサク
クロモジ
ヤマボウシ
ヤブムラサキ
ナツツバキ

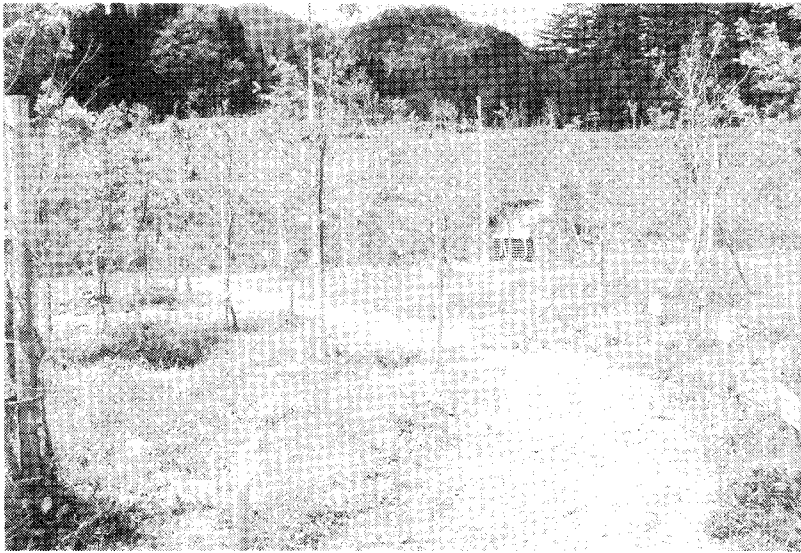
花を楽しむ木
13科46種



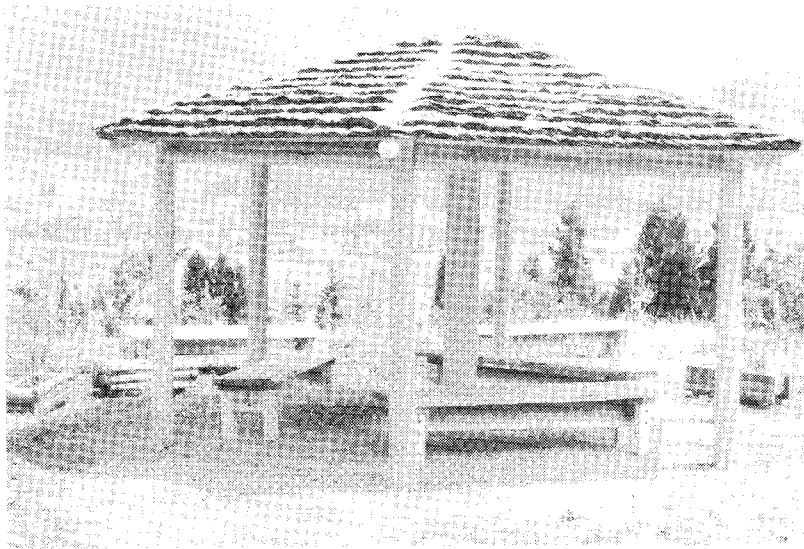
二ツ塚の森 全景



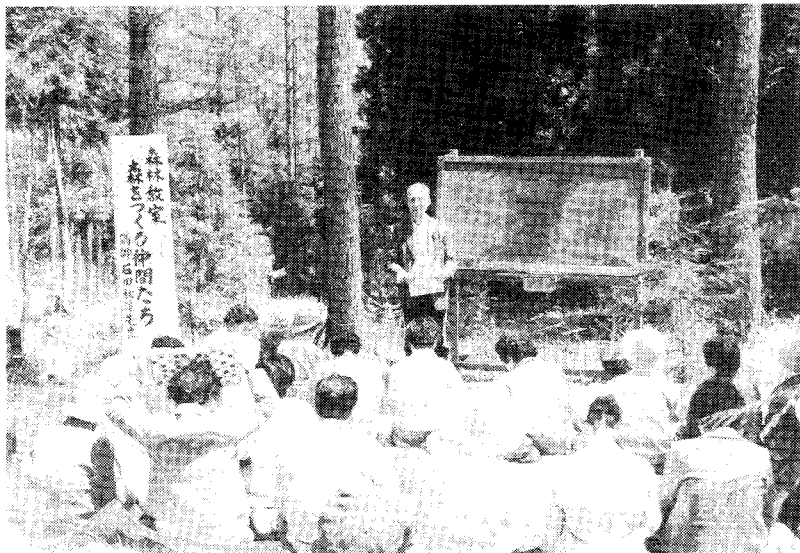
遊歩道入口



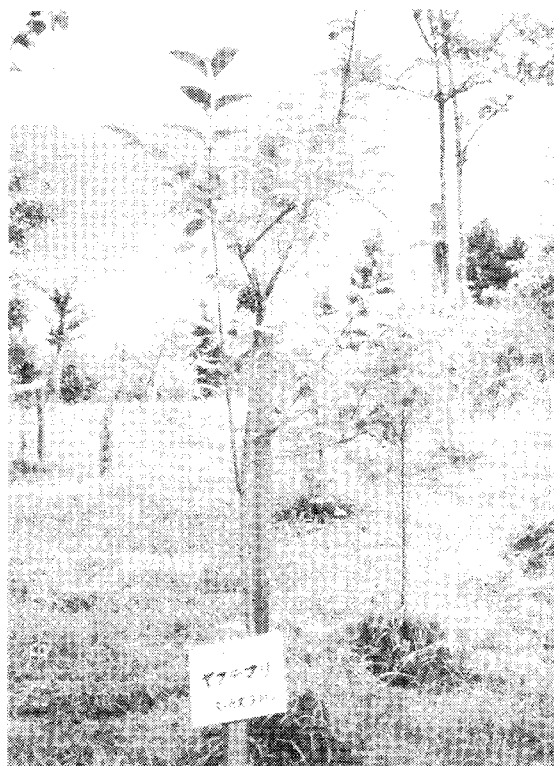
歩道沿いに44科147種の広葉樹を植付



平成4年に設置した東屋



町民を集めた森林教室



看板をつけた樹木